

くまがや自治連だより

# ひろば

第4号

平成20年10月発行



特別市に向けて先人の功績に応えよう

副会長 鈴木 半禄

「散切り頭を叩いて見れば、文明開化の音がする」江戸から東京へと改称し、年号も明治と改まった頃、国内は、急激な変革を遂げる。

わが熊谷も、後に初代の埼玉県議会議長となった竹井濤如氏らのご尽力により、明治六年には入間・群馬の両県を併して「熊谷県」が置かれ、高崎、前橋を呑み込んだ大地域となった。

翌明治七年には、熊谷に管内取り締まりの出張所（翌年には巡查屯所、同十年には熊谷警察署と改称）が設けられたり、また、明治十六年には、日本最初の私設鉄道が上野・熊谷間で開通するなどした。その後、明治二十九年には、熊谷測候所（熊谷気象台）が観測業務を開始した。この他にも種々なる公施設が置かれ、東北の雄都としての基礎を築いたのである。

熊谷市では、此の度の合併に依り東北初の二十万都市となつて、平成二十一年四月の特別市移行に向けて更なる努力が続けられている。

自治会も三六六人の会長を中心に市政に協力し、魅力ある豊かな住み良いまちづくりをして、先人の功績に応えようと精進しております。皆様方の一層のご協力をお願い申し上げます。



大 森 生				三 尻				自治会名	會長名
広瀬団地	広瀬西部	広瀬中部	赤城	武休原	上川原	女堀	新堀陣A.C官舎		
中島	正吉	幸一	馬場	松本	深澤	土屋	根岸	大澤	
延吉	正吉	幸一	春夫	良昭	秋雄	宣明	精一	富田	
中島	正吉	幸一	春夫	良昭	秋雄	宣明	精一	富田	
中島	正吉	幸一	春夫	良昭	秋雄	宣明	精一	富田	

西2区

別 府			新 堀			玉 井			自治会名	會長名
別府二丁目	別府三丁目	別府四丁目	新堀第1	新堀第2	新堀第3	新堀第4	新堀第5	玉井中央		
金子	憲一	小川	久保	久保	久保	久保	久保	清水	福嶋	小久保
憲一	小川	久保	久保	久保	久保	久保	久保	清水	福嶋	小久保
憲一	小川	久保	久保	久保	久保	久保	久保	清水	福嶋	小久保

西1区

中 条				肥 塚				自治会名	會長名
中条川南	大塚	小曾根	今井	肥塚中島	肥塚北	肥塚南	肥塚中央		
吉野	勝男	桐本	北条	小林	海老原	福岡	飯田	八木	
勝男	桐本	北条	德一	小林	海老原	福岡	飯田	八木	
勝男	桐本	北条	德一	小林	海老原	福岡	飯田	八木	

北 区

吉 岡			荒 川			宮 本			自治会名	會長名
吉岡	岡	萬吉	荒川	川	宮本	宮本	宮本	宮本		
吉岡	岡	萬吉	荒川	川	宮本	宮本	宮本	宮本	宮本	宮本
吉岡	岡	萬吉	荒川	川	宮本	宮本	宮本	宮本	宮本	宮本
吉岡	岡	萬吉	荒川	川	宮本	宮本	宮本	宮本	宮本	宮本

南 区

大 饗				集 集				自治会名	會長名
大饗	大饗	大饗	大饗	集集	集集	集集	集集		
大饗	大饗	大饗	大饗	集集	集集	集集	集集	集集	集集
大饗	大饗	大饗	大饗	集集	集集	集集	集集	集集	集集
大饗	大饗	大饗	大饗	集集	集集	集集	集集	集集	集集

妻 沼				妻 沼				自治会名	會長名
妻沼	妻沼	妻沼	妻沼	妻沼	妻沼	妻沼	妻沼		
妻沼	妻沼	妻沼	妻沼	妻沼	妻沼	妻沼	妻沼	妻沼	妻沼
妻沼	妻沼	妻沼	妻沼	妻沼	妻沼	妻沼	妻沼	妻沼	妻沼
妻沼	妻沼	妻沼	妻沼	妻沼	妻沼	妻沼	妻沼	妻沼	妻沼

妻沼地区

大 饗				集 集				自治会名	會長名
大饗	大饗	大饗	大饗	集集	集集	集集	集集		
大饗	大饗	大饗	大饗	集集	集集	集集	集集	集集	集集
大饗	大饗	大饗	大饗	集集	集集	集集	集集	集集	集集
大饗	大饗	大饗	大饗	集集	集集	集集	集集	集集	集集

長 井				太 田				男 沼				妻 沼			
長井	長井	長井	長井	太田	太田	太田	太田	男沼	男沼	男沼	男沼	妻沼	妻沼	妻沼	妻沼
長井	長井	長井	長井	太田	太田	太田	太田	男沼	男沼	男沼	男沼	妻沼	妻沼	妻沼	妻沼
長井	長井	長井	長井	太田	太田	太田	太田	男沼	男沼	男沼	男沼	妻沼	妻沼	妻沼	妻沼
長井	長井	長井	長井	太田	太田	太田	太田	男沼	男沼	男沼	男沼	妻沼	妻沼	妻沼	妻沼

大 里				大 里				自治会名	會長名
大里	大里	大里	大里	大里	大里	大里	大里		
大里	大里	大里	大里	大里	大里	大里	大里	大里	大里
大里	大里	大里	大里	大里	大里	大里	大里	大里	大里
大里	大里	大里	大里	大里	大里	大里	大里	大里	大里

大里地区

秦				長 井				自治会名	會長名
秦	秦	秦	秦	長井	長井	長井	長井		
秦	秦	秦	秦	長井	長井	長井	長井	長井	長井
秦	秦	秦	秦	長井	長井	長井	長井	長井	長井
秦	秦	秦	秦	長井	長井	長井	長井	長井	長井

全自治会数 366自治会

平成二十九年九月現在

赤色付は地区連合会員

江 南				江 南 地 区				自治会名	會長名
江南	江南	江南	江南	江南地区	江南地区	江南地区	江南地区		
江南	江南	江南	江南	江南地区	江南地区	江南地区	江南地区	江南地区	江南地区
江南	江南	江南	江南	江南地区	江南地区	江南地区	江南地区	江南地区	江南地区
江南	江南	江南	江南	江南地区	江南地区	江南地区	江南地区	江南地区	江南地区



## ◇◇宮町自治会連合会◇◇

連合会長 松島 恒

宮町地区は、熊谷市役所前方一帯に位置している十自治会、加入世帯数は四百九十二世帯と大変大きな連合会です。お年寄も多く、毎年この地域では敬老会を高城神社をお借りして盛大に行っています。その高城神社はこの連合会の中央に鎮座しており、地域の守り神として皆さんに親しまれ、自治会の為にもいろいろご協力頂いております。



高城神社

今回は、皆様にごの高城神社を紹介すべく宮町さんにお話を寄せていただきました。一度お出かけになつてはいかがでしょうか。  
「神様のこと」を考えるのも、意義あるものと思いませんか。

## 高城神社

熊谷の総鎮守である「明神様」こと高城神社は、創始奉斎は奈良時代以前と伝えられている。「延喜式神明帳」に「大里郡一座高城神社」と記載されていることから、このことがうかがわれます。

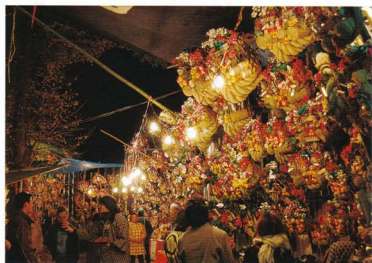
天正十八年（一五九〇）豊臣秀吉が小田原の北条氏を攻めた際、忍城（現・行田市）も攻められ、高城神社も災禍に遭い社殿を焼失しました。

その後、寛文十一年（一六七二）に再建しましたが、忍城主、阿部豊後守忠秋が「高城神社は式内社」であることから社殿再興を計ったのがきっかけでした。この時、再建された本殿・拝殿は今もなお当時の面影そのままに残されています。（本殿・拝殿・手水舎以外の建物は昭和二十年八月四日の熊谷大空襲によって焼失）

祭神は「高皇産靈尊」で「縁結び」「家内円満」「商売繁盛」の神として崇敬されています。



胎内くぐり



西の市

神事として、毎年六月三十日に「胎内くぐり」が行われます。国道十七号に面した一の鳥居に直径四メートルもある大きな茅の輪を設置し、その茅の輪をくぐって災厄を取り除くというものです。また、毎年十二月八日には「西の市」が境内で行われます。熊谷西の市発祥の地として高城神社には熊谷住民だけでなく多くの人たちが熊手や飾り物を求め、足を運びます。

境内には樹齢六百年以上のケヤキが数本あり、御神木のケヤキにいたっては樹齢が八百年以上と言われています。

境内の末社には、熊谷の地名を産んだ「熊野社」六柱の神をまつる「六社」、新生児のお食い初めの時に歯ぐきに当てる丈夫な歯が生えると言われている赤石が敷き詰められている少彦名神（医学の神様・歯の神様）をまつる「天神社」がある。

## ◇別府自治会連合会◇

連合会長 小林 隆

別府地区は熊谷市の西北に位置する農村地帯で昭和二十九年(一九五四)に熊谷市に合併する。

その後、昭和四十五年(一九七〇)の都市計画により、桑畑だった南部地域の大部分が市街化区域になり、区画整理が行われて住宅地となったため人口が急増しました。二千五百世帯・人口六千五百人となっております。

自治会は旧地区三自治会・新地区四自治会の七自治会で連合自治会を組織しております。

行事としては地区体育大会を主催し、敬老会及び七つの祝等は公民館等と共催です。また、近年子供に関係する犯罪の多発に対し、防犯と子供を見守る運動に連合自治会が主力となって活動しております。



別府沼公園



東別府祭りばやし

## 別府沼公園

旧別府沼を含む公民館北側地区約十七ヘクタールを別府沼公園として整備し、市民憩いの場として大勢の人達で賑わっています。

## 東別府祭りばやし(熊谷市無形文化財)

起源のほどは確かではないが、太鼓に記されている「寛政元年三月吉日」(二七八九)江戸浅草新町の記録により二百年以上前か！  
祭礼は七月二十四日・二十五日



九品仏

## 九品仏(西別府・安楽寺) 熊谷市指定文化財

寺の開創(七一七)と同時に藤原不比等の建立とされ、当時は釈迦・阿弥陀・葉師の弥勒、約八百年前別府城を築城した別府二郎行隆が阿弥陀六体を寄進して九体とした。



九品仏堂



別府氏の墓



権田麦翁碑

## 別府氏の墓(西別府・安楽寺)

昭和十二年三月、「埼玉懸ヨリ史蹟トシテ指定セラル」別府氏は成田氏系図によると、藤原氏の流れて、成田助高の二男、別府二郎行隆が別府に住んでから。その子の太郎義行は東別府に、二郎行助が西別府に、数代相対して領地した。

この安楽寺にある別府氏の墓は大小二基の五輪塔と三基の板石塔婆である。このうち板石塔婆の一基は高さ二メートル、幅五十二センチで別府頼重の墓と称される。なお、板石塔婆は文和三年(一三五四)の紀年が示すように南北朝時代の代表的なものである。

## 権田麦翁碑(別府沼公園内)

昭和四十九年十一月熊谷市指定文化財となる。権田愛三は、明治・大正・昭和にかけて新しい麦作技術を開発した麦作の先駆者で麦王と呼ばれている。  
大正三年四月「緑綬褒章」を賜る。

# ◇肥塚自治会連合会◇

北肥塚自治会長 菊地 太郎

## 肥塚山成就院燈籠佛の由来について

私達の居住する肥塚地区では毎年十月十日、肥塚山成就院燈籠佛の御開帳がしめやかに、又地区の皆さんにはお祭りとして、賑やかに執り行われています。

燈籠佛の御本尊は一光三尊で、阿弥陀如来を中心に右に観世音菩薩、左に勢至菩薩を従えた仏像で、黄金の燈籠の中に安置された一寸八分（約五cm位）の御佛像でございます。



成就院本堂



山門



鐘楼堂

成就院の燈籠佛は、今を去ること四百三十六年前、元龜三年（一五七二年、正親町天皇の室町時代）に別々の地で発見され、甲州の善光寺に奉獻された二体の佛像の内の一休で、伊豆海岸より西本坊の僧侶が発見したものであるとされています。

成就院第十三世寛峯和尚（一七八一—一七八九）が所用で甲州の善光寺にしばしば立ち寄った時に、燈籠の中に安置せる尊像より「宿縁ある汝の住める関東平野を一望にした武州熊谷宿に、肥塚に住む、平和の光を輝かしたい、汝我れを背負って肥塚山成就院にゆかれよ」とお告げがあり当時の善光寺住職に奉獻せられ、直ちにはるる背負って帰られ、本堂に脇本尊として安置し「一光三尊の御真言を唱え奉り数限りない諸願を御祈祷し、衆生を救い、近郷近在に其の名を広め無限の功徳を授け大願成就された」と言われています。

又当時の忍城主阿部豊後守正充公の守り本尊として尊信され、安永六年（一七七七）八月江戸の藩邸に招かれ燈籠佛の軽重により吉凶を占い諸願

を叶えたとのことでした。

その後代々の住職に法燈が受けつがれ、講中も出来、近郷近在まで肥塚の燈籠佛といわれ毎年十月十日に御開帳し御詣りしていたとされており、第二次世界大戦で講中は中止となりました。

戦後、年々燈籠佛も盛んになり、家内安全、交通安全、厄除け等、祈願し皆様方のご安泰を燈籠佛の御宝前にお願ひ申しあげています。

以上のような事なので、地区の役員さんもお当りは、朝早くから成就院へ集合して御開帳のお手伝いをして、夜は地域の皆さんの演芸会として、カラオケ、民謡踊り、フォークダンス等で賑やかに御開帳をお祝ひしています。

## 編集後記

今年の夏も「あついでー熊谷」のフレーズ通り暑い日が続きましたが、それ以上に熱く、多くの人々が北京オリンピックでの日本選手の活躍に一喜一憂していたのと思われまます。また、国内では甲子園で高校野球が、熊谷市では高校総体の陸上競技と体操競技が開催されたなど、スポーツで大いに盛り上がった夏でした。

そして市内各地域においても、納涼大会や盆踊り大会など色々な催し物が開催されるなど、地域おこしや地域活性化のために自治会役員さんたちが大変頑張っておられました。昨年、自治会活動も役員さんの高齢化などで困難な面が多々ありますが、一人でも多くの若い人たちに参加していただき、自分達の地域は自分達の手で作っていくという考えを持ってもらえればと願っております。

今号に御寄稿いただきました皆様にお礼申し上げますとともに、各自治会の今後をますますのご活躍をご祈念申し上げます。

副会長

岡田 澄夫